



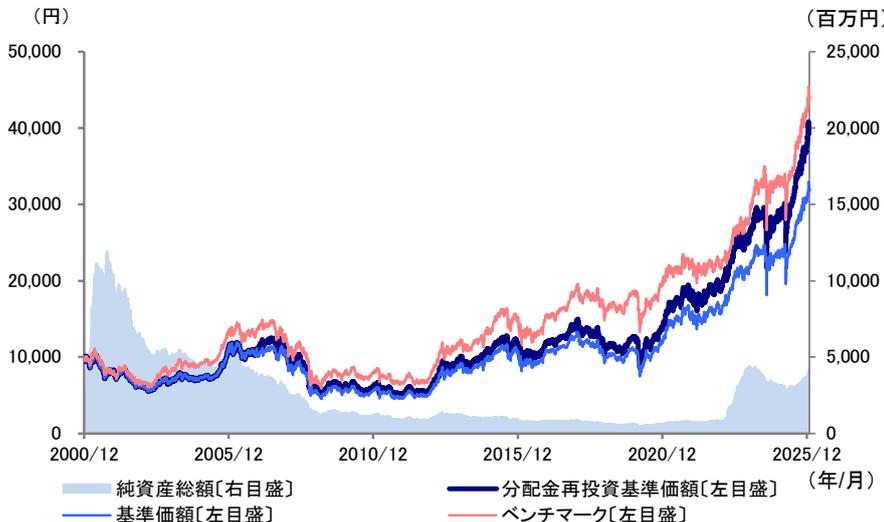
明治安田セレクト日本株式ファンド  
《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年 1月30日  
資料作成日：2026年 2月 6日

【日本経済新聞掲載名】初くんJ

基準価額・純資産総額の推移



設定日	2000年12月27日
信託期間	無期限
決算日	毎年12月20日 (休業日の場合は翌営業日)
信託報酬率	後記の「ファンドの費用・税金」参照

基準価額・純資産総額

基準価額	32,029円
前月末比	1,519円
純資産総額	4,121百万円

分配金実績

第21期	2021/12	220円
第22期	2022/12	270円
第23期	2023/12	130円
第24期	2024/12	350円
第25期	2025/12	480円
設定来累計		3,040円

※ ベンチマークは東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。  
 ※ ベンチマークは設定日前日を10,000として指数化しています。  
 ※ 分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものであり、分配金実績があった場合に税引前分配金を再投資したものと算出しています。

※ 分配金は10,000口あたりの税引前の金額  
 ※ 分配金は増減したり支払われないことがあります。

期間別騰落率

期間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	5.0%	8.5%	22.8%	36.4%	98.4%	296.5%
ベンチマーク	4.6%	7.2%	22.5%	31.1%	94.2%	341.7%

※ 騰落率は分配金再投資基準価額で算出しています。

資産別構成

	比率
国内株式	95.0%
株価指数先物	—
短期金融資産等	5.0%

組入上位10業種

	比率
1 電気機器	18.8%
2 銀行業	12.3%
3 機械	7.1%
4 卸売業	5.6%
5 輸送用機器	5.6%
6 化学	4.8%
7 情報・通信業	4.5%
8 建設業	3.5%
9 サービス業	3.2%
10 非鉄金属	3.1%

組入上位10銘柄

		銘柄数	122
銘柄名	業種	比率	
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.6%	
2 ファナック	電気機器	3.6%	
3 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.5%	
4 日立製作所	電気機器	3.0%	
5 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.4%	
6 東京エレクトロン	電気機器	2.3%	
7 住友商事	卸売業	2.2%	
8 ソニーグループ	電気機器	1.9%	
9 オリックス	その他金融業	1.8%	
10 三菱商事	卸売業	1.7%	

※比率は純資産総額に対する割合です。  
 ※業種は東証33業種分類です。

明治安田セレクト日本株式ファンド  
《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年 1月30日  
資料作成日：2026年 2月 6日

【日本経済新聞掲載名】初くんJ

## 市場動向

国内株式相場において、東証株価指数(TOPIX)は上昇しました。

2月の衆議院議員選挙に向けて財政拡張を伴う経済対策に対する期待が広がる中、月半ばにかけて上昇しました。その後はグリーンランド領有を巡る米国と欧州との対立懸念に加え、外国為替市場における円買い為替介入に対する警戒感が重しとなり、軟調に推移しました。なお、月末近くには同選挙後に政府の掲げる「責任ある積極財政」が加速するとの見方に支えられる展開となりました。

## 運用経過

基準価額の騰落率は前月末比5.0%の上昇となりました。

・銘柄選択は、エンビプロ・ホールディングス(鉄鋼)、フルヤ金属(その他製品)、双日(卸売業)等がプラス寄与となりましたが、ソニーグループ(電気機器)、平河ヒューテック(非鉄金属)、ハーモニック・ドライブ・システムズ(機械)等がマイナスに影響しました。

・業種配分は、銀行業、非鉄金属をオーバーウェイトしていたことがプラスに寄与しました。一方、その他金融業をオーバーウェイトしていたこと、卸売業をアンダーウェイトしていたことがマイナスに影響しました。

・主な買付銘柄は、東京エレクトロン、日鉄鉱業、オープンハウスグループ、主な売却銘柄は放電精密加工研究所、オービックビジネスコンサルタント、アドバンテストなどです。

## 今後の運用方針

銘柄選定にあたっては、企業を取巻く経済・社会環境および事業環境の変化に対応して、今後成長が期待できる産業分野の中から、継続して成長が期待でき、質の高いと判断される銘柄を厳選の上、中長期的な観点から投資します。株式の組入比率は、純資産総額に対して原則として高位を保ち、業種分散、流動性等に配慮のうえ投資します。

## 銘柄紹介

3964 オークネット

同社は、1985年に世界初のオンライン中古車オークションを立ち上げた先駆的企業で、現在では複数分野でインターネットプラットフォームを展開しています。事業は大きく二つに分かれ、中古自動車やバイクを扱う「モビリティ&エネルギー事業」と、中古スマートフォンやブランド品を中心とする「ライフスタイルプロダクツ事業」で構成されています。

最大の特徴は、在庫を自社で抱えないアセットライト型のビジネスモデルにあります。会員間の取引をオンライン上で完結させることで、物流負担や在庫リスクを抑えつつ高い収益性を実現しています。長年蓄積してきた情報の信頼性と、独自の車両検査システム(AIS)がオンライン取引を支えており、厳格な基準に基づく検査データが買い手の安心感につながっています。また、AIS検査基準は業界標準として確固たる地位を築いており、同社の大きな競争優位性になっていると考えています。収益は月会費によるストック収益と取引手数料によるフロー収益の組み合わせで、取扱件数の増加が利益成長に直結しやすい構造となっています。

現在は「モビリティ&エネルギー事業」を基盤としながらも、業績の牽引役となっているのが中古スマートフォンを中心とした「ライフスタイルプロダクツ事業」です。中古スマートフォン市場は、iPhoneなどの端末価格の高騰やサステナビリティ志向の高まりを背景に市場拡大が続いています。同社は国内で培った検品技術やデータ消去ノウハウを武器に、北米やアジアへ事業を広げ、2024年度の総取扱高は約6,415億円(前年比14.3%増)となり、プラットフォームとしての市場規模拡大が着実に進んでいます。また、自社株買いや配当性向の引き上げなど株主還元も強化しており、今後もリユース市場の拡大が見込まれることから、同社のさらなる発展が期待されます。

※ 上記で紹介している会社は当ファンドのご理解を深めていただくために当該会社の開示資料等を基に明治安田アセットマネジメントが独自に作成したものであり、銘柄への投資を推奨するものではありません。また、上記内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更する場合があります。

## ディバースメント取引の流行と日本株の行方

近年、金や銀の価格上昇が一般メディアでも頻繁に取り上げられるようになり、身近なところでも金の買い取りを促す広告を目にする機会が増えています。こうした動きを背景に、金需要が高まる理由や、それが日本株にどのような影響をもたらすのかを整理していきます。貴金属市場を振り返ると、金や銀が大きく買われる局面には、歴史的に共通するいくつかのパターンが見られます（表①）。

【表①】金価格が急上昇した局面

代表例のパターン	きっかけ
制度レジーム型（1970年代）	1971年に米ドルの金兌換を停止→高インフレ・通貨不安
リーマン・ショック後の金融抑圧・緩和長期化型（2008～2011年）	2008年以降、米国が量的緩和を開始／欧州の財政危機
パンデミック後の巨額財政・金融緩和型（2020年前後）	世界的な大規模金融緩和・不確実性

①ドル（または自国通貨）から離れて、金やビットコインなど供給量に限りのある資産へ資金が逃避する動き

②背景には、政府債務の持続可能性や中央銀行の独立性に対する不安が存在

こうした二つの要因で整理され、総称して「ディバースメント取引」と呼ばれます。通貨の価値保管機能が低下すると判断される局面で、追加発行できない資産へと交換し、通貨価値が回復するまで待つという行動様式です。また、制度変更、経済危機、パンデミック（コロナ禍）などが発生した際には、上記の表が示すように、通貨不安が高まる局面で共通して見られる動きとして位置づけられます。

こうした背景から、ドルと逆の動きをしているのではないかと考え、

1999年末から2026年1月26日までの月次データを用いて相関を確認したのが右記の表②です。

相関係数は、資産同士の値動きの関係性を示す指標で、0であれば値動きに関連がなく、+1であれば同じ方向に動き、-1であれば完全に逆方向に動くことを意味します。

これを見ると、ドルが強い局面では貴金属関連資産が弱含む傾向が確認できます。

日本株の中では、非鉄金属指数\*がドルと逆相関の傾向を示しています。

非鉄金属指数の構成銘柄の中に大規模な金鉱山を保有する企業は

多くありませんが、銅鉱山を持つ企業や銅の精錬を行う企業が含まれている点が特徴です。

足元では、電線メーカーなどが銅価格の上昇やAIサーバー向け需要の拡大を背景に好業績となっており、こうした銘柄も同指数に組み込まれています。

【表②】ドルとの相関

（期間：1999年12月末～2026年1月26日、月次）

貴金属・指数名	ドル指数との相関係数
金	-0.456
銀	-0.425
プラチナ	-0.436
非鉄金属指数*	-0.141

では、実際に誰が金を買っているのかという点についてです。金は現物を伴う取引であるため、World Gold Council（WGC）のレポートを基にすると、国ごとの購買動向が把握できます。2024年も各国の金購入は継続しており、特にポーランド・トルコ・インド・中国が上位となっています。WGCは、2024年の中央銀行による純購入量を1,045トン（3年連続で1,000トン超）と示しています。さらにWGCは報告値だけでは全体像を捉えられないと明記しており、2024年についてはIMF IFSIに掲載されているデータが推計総需要の34%に過ぎないとしています。また、中東や中国など、地政学リスクや政情不安を抱える地域で金の需要が特に強いことがうかがえます。インドも上位に入っており、インドルピーが長期的に下落してきたことも、金需要を押し上げる一因と考えられます。

各国の金需要が高まる状況を踏まえると、次に注目されるのはディバースメント取引がどのような局面で終わるのかという点です。通貨価値の毀損懸念から金などの希少性資産へ資金が向かう動きが収束するきっかけとしては、主に次のような要因が挙げられます。

- ①実質金利の上昇による金融引き締めの本格化
- ②インフレ期待の沈静化による政策への信認回復
- ③ドル高や流動性志向の復活によるリスクプレミアムの低下
- ④積み上がったポジションや資金フローの巻き戻し

足元では、パンデミック後のインフレを背景に各国で財政出動が続き、米国景気は想定以上に底堅く推移しています。日本でも解散総選挙が行われ、積極財政を掲げる高市政権への信任が問われています。為替では日米が協調して160円以下を維持しようとする姿勢が見られ、トランプ大統領は金利低下を望んでいます。当面はドル高に転じる要因が見えにくい状況です。

### 投資戦略のまとめ

今後は、米国景気の減速や政権交代による金融引き締めによって、ドル高と巻き戻しが起こる可能性があります。一方で追加の財政出動が行われる可能性も残り、現在は大きな転換点にあるといえます。こうした状況では企業がキャッシュフローを生む株式が相対的に魅力的です。小型バリュー株の保有比率が高い当ファンドにおいては、ドルが弱含む局面でバリュー株が相対的に優位となる傾向がみられます。こうした環境変化を踏まえ、当ファンドは引き続き魅力ある投資機会の選別に注力してまいります。

\* 非鉄金属指数は、東証株価指数の構成銘柄のうち「非鉄金属」業種に分類される銘柄のみで構成される業種別指数です。

出所：ブルームバーグのデータ、各種報道をもとに明治安田アセットマネジメント作成

※当資料に掲載されたいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

# 明治安田セレクト日本株式ファンド

## 《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

### ファンドの目的

明治安田セレクト日本株式ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

### ファンドの特色

- 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとし、これを中・長期的に上回る運用成果を上げることが目標に運用を行います。  
※TOPIXは、株式会社JPX総研が算出する株価指数であり、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。  
TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- 銘柄選定にあたっては、企業を取巻く経済・社会環境および事業環境の変化に対応して、今後成長が期待できる産業分野の中から、継続して成長が期待できる質の高いと判断される銘柄に厳選の上、中長期的な観点から投資します。
- 株式の組入比率は、純資産総額に対して原則として高位を保ち、業種分散、流動性等に配慮のうえ投資します。  
※投資環境、資金動向等を勘案して、ファンドマネージャーの判断で、組入れ銘柄数の調整や、先物取引等を利用して実質株式組入比率を引下げる等の調整を行うことがあります。

### 分配方針

年1回(12月20日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、諸経費等控除後の利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
  - ・収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
- ※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

### 投資リスク

#### 基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動の影響を受け、基準価額は変動します。

これらの運用により信託財産に生じた運用成果(損益)はすべて投資者の皆さまに帰属します。

したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。**

**投資信託は預貯金と異なります。**

なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

主な変動要因

株価変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、金融情勢・金利変動等および発行体の企業の事業活動や財務状況等の影響を受けて変動します。保有する株式価格の下落は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
信用リスク	投資している有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払い遅延等の債務不履行が起こる可能性があります。また、有価証券への投資等ファンドに関する取引において、取引の相手方の業績悪化や倒産等による契約不履行が起こる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価額で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 有価証券を売買しようとする際、需要または供給が少ない場合、希望する時期・価格・数量による売買ができなくなることがあります。
- 資金動向、市況動向等によっては、投資方針に沿った運用ができない場合があります。
- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があるため、分配水準は必ずしも当該計算期間中の収益率を示すものではありません。  
投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況により、分配金額の全部または一部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。  
分配金は純資産から支払われるため、分配金支払いに伴う純資産の減少により基準価額が下落する要因となります。当該計算期間中の運用収益を超える分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べ下落することとなります。

# 明治安田セレクト日本株式ファンド 《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。 (基準価額は1万口当たりで表示しています。以下同じ。) ※基準価額は販売会社または委託会社へお問合わせください。
購入代金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から受益者に支払います。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時30分までに販売会社が受付を完了した分を当日の申込みとします。なお、販売会社によっては受付時間が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問合わせください。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2000年12月27日設定)
繰上償還	委託会社は、受益権の総口数が3億口を下回った場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
決算日	毎年12月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ※当ファンドには、「分配金受取りコース」および「分配金再投資コース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については、異なる場合がありますので、販売会社へお問合わせください。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「特定非課税管理勘定(成長投資枠)」の対象です。販売会社によって取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社へお問合わせください。 なお、税法が改正された場合には、上記の内容が変更されることがあります。

## ファンドの費用・税金

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳細については、お申込みの各販売会社までお問合わせください。 ※購入時手数料は、購入時の商品説明、事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 <b>年1.375%(税抜1.25%)</b> の率を乗じて得た額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの日々の基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(該当日が休業日の場合は翌営業日)および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われます。 <b>内訳</b>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配分</th> <th>料率(年率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.55%(税抜0.5%)</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.77%(税抜0.7%)</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.055%(税抜0.05%)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td><b>1.375%(税抜1.25%)</b></td> </tr> </tbody> </table>	配分	料率(年率)	委託会社	0.55%(税抜0.5%)	販売会社	0.77%(税抜0.7%)	受託会社	0.055%(税抜0.05%)	合計	<b>1.375%(税抜1.25%)</b>
配分	料率(年率)										
委託会社	0.55%(税抜0.5%)										
販売会社	0.77%(税抜0.7%)										
受託会社	0.055%(税抜0.05%)										
合計	<b>1.375%(税抜1.25%)</b>										
その他の費用・手数料	信託財産の監査にかかる費用(監査費用)として監査法人に年0.0044%(税抜0.004%)を支払う他、有価証券等の売買の際に売買仲介人に支払う売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合に当該資産の保管や資金の送金等に要する費用として保管銀行に支払う保管費用、その他信託事務の処理に要する費用等がある場合には、信託財産でご負担いただきます。 ※その他の費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、監査費用は監査法人等によって見直され、変更される場合があります。										

※当該手数料等の合計額については、投資者の皆さまの保有期間等に依りて異なりますので、表示することができません。

## ファンドの税金

・税金は表に記載の時期に適用されます。

・以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税します。 普通分配金に対して .....20.315%
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税します。 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して .....20.315%

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※受益者が確定拠出型年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。また、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

※法人の場合については上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。

税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めいたします。

設定・運用は

明治安田アセットマネジメント

最終ページの「当資料ご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

# 明治安田セレクト日本株式ファンド 《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

## 販売会社一覧

※お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

販売会社名	登録番号	加入協会				備考
		日本証券 業協会	一般社団 法人日本 投資顧問 業協会	一般社団 法人第二 種金融商 品取引業 協会	一般社団 法人金融 先物取引 業協会	
<b>銀行</b>						
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式 会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社愛媛銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第6号	○			
株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○			*
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○			*
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	*
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式 会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
<b>証券会社</b>						
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			*
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			*
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	*
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			*
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○

\* 現在、新規の販売を停止しております。

# 明治安田セレクト日本株式ファンド 《愛称》初くん

追加型投信／国内／株式

## 当資料ご利用にあたっての留意事項

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社が運用状況をお知らせすることを目的に作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託のお申込みを行う場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書（交付目論見書）で内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。投資信託の運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではなく、また、登録金融機関から購入された投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料の運用実績に関するグラフ・数値等は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。
- 当資料に記載された見解・見通し・投資方針は作成時点における明治安田アセットマネジメント株式会社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- 当資料に掲載された個別の銘柄や企業名は参考情報であり、これらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

## 委託会社、その他関係法人の概要

<b>委託会社</b>	ファンドの運用の指図等を行います。 明治安田アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	<ファンドに関するお問い合わせ先> 明治安田アセットマネジメント株式会社 フリーダイヤル 0120-565787（営業日の午前9時～午後5時） ホームページアドレス <a href="https://www.myam.co.jp/">https://www.myam.co.jp/</a>
<b>受託会社</b>	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 株式会社りそな銀行	
<b>販売会社</b>	ファンドの募集の取扱いおよび解約お申込みの受付等を行います。 販売会社一覧をご覧ください。	